

## 女性の自立に関する研究（第2報）

## － 女性のライフコースと職業的地位形成－

共立女大 ○細江容子 お茶女大生活 袖井孝子 青葉学園短大 長津美代子

【目的】 第二報においては、経済的自立を可能にするうえで最も重要な要因である職業的地位形成過程に注目する。これまで、職業階層において上位に位置づけられる専門・管理職女性が、どのような要因によって現在の職業的地位に到達したのかについての研究は、あまりなされていない。本報告では、自立に関する事例調査を用いて、職業階層において上位に位置づけられる専門・管理職女性に焦点をあて、その女性達がどのような要因によって現在の職業的地位形成を可能にしたかを中心に報告する。

【方法】 事例調査：調査対象者は東京都内その近郊に居住する30代と50代の既婚女性110名で面接有効票数は97名（50代44名、30代53名）であった。調査は1991年1月から2月に行われた。

【結果】 職業的地位形成の条件として重要な（1）児童期での両親のしつけや家庭の雰囲気（2）青年期における自己意識の形成（3）結婚による家庭生活と職業生活の両立可能要因を中心に分析を行った結果、以下のような点が明らかとなった。（1）50代では児童期における良好な父子関係を持つ者が多いが、30代ではそれほど目立たない。（2）50代では職業的地位形成において父親の影響が強く、50代での職業的役割模倣の相手が父親である事をうかがわせる。一方30代では母親の影響が強い。（3）50代、30代共に明確な職業意識を持つ者が多く、それを達成するための強い意欲と努力が示された（4）職業生活との両立に関しては本人の母親の協力が大きいといえるが、30代においてより50代においてより顕著である。